

CAMPUS HEALTH

2018.3

55 (1)

第55回全国大学保健管理研究集会
(琉球大学) 報告書



Japan University Health Association

第55回全国大学保健管理研究集会

The 55th Annual Meeting of Japan University Health Association

大学から地域へ広げる健康づくりの輪
～ゆいまーる～

報告集

会期 平成29年(2017年) 11月29日(水) ～ 11月30日(木)

会場 沖縄コンベンションセンター

主催 公益社団法人 全国大学保健管理協会
国立大学法人 琉球大学

後援 文部科学省

目 次

第55回全国大学保健管理研究集会 ごあいさつ

「大学から地域へ広げる健康づくりの輪 ゆいま〜る」 5

第55回全国大学保健管理研究集会 運営委員長 大城 肇 渡名喜 庸安 大屋 祐輔

I. プログラム

プログラム・日程表 9

II. 開会式 13

III. 特別講演

1 島嶼からみる健康・医療 大城 肇 17

2 あらためて、「生まれる場」と「死ぬ場」から考える 三砂ちづる 20

IV. 教育講演

1 形態とゲノムから探る琉球列島のヒト 石田 肇 23

2 昆虫社会における共同と裏切りのせめぎ合い 辻 和希 25

3 南の島、沖縄県における感染症から琉球人のルーツを探る 藤田 次郎 26

V. シンポジウム

1 健康長寿を目指した取り組み：大学と地域の役割

① 短命県返上に向けた弘前大学と青森県の試み 中路 重之 33

② 血清アディポネクチン濃度測定の意義 ―教職員健診や病院ドックでの活用 広瀬 寛 37

③ 「農民とともに」のこころで ―住民主体の健康づくりを目指して― 西澤 延宏 40

④ 地域のコミュニティと学校を核とした人と人が結びつく健康づくり：大学の役割 崎間 敦 41

2 学生の多様性と支援の広がり

① 九州大学における学生のメンタルヘルス支援 梶谷 康介 44

② 留学生の健康促進を目指す予防的心理支援 鈴木 華子 47

③ 学生相談における多様性への対応 高野 明 51

④ 名古屋大学生の就職事情 船津 静代 53

VI. ランチョンセミナー 57

VII. 一般研究発表

優秀演題表彰 63

一般研究発表 64

VIII. 展示ブースコーナー

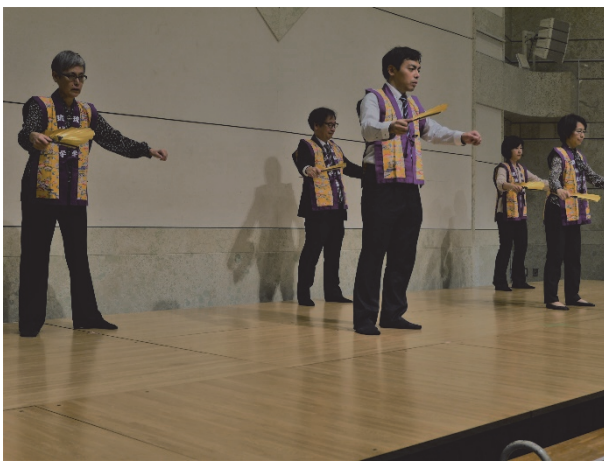
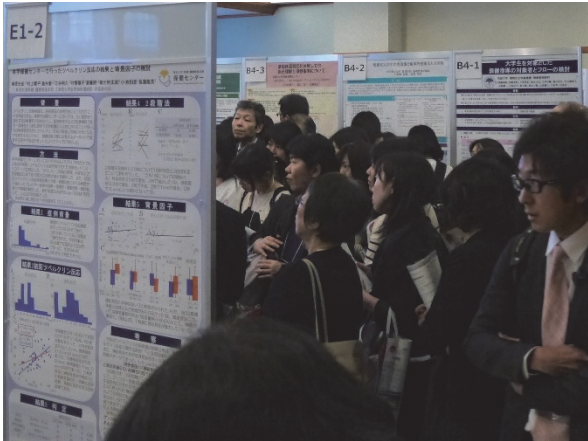
賛助会員交流コーナー / 企業展示コーナー 469

IX. 閉会式 473

X. 名簿

第55回全国大学保健管理研究集会 運営委員会委員・幹事名簿 477

第55回全国大学保健管理研究集会 参加者・研究発表者等名簿 478



ごあいさつ

大学から地域へ広げる健康づくりの輪 ゆいま～る

第 55 回目となる全国大学保健管理研究集会が平成 29 年 11 月 29 日（水）・30 日（木）の両日にわたり、沖縄コンベンションセンターにて開催されました。本会の沖縄県での開催は初めてでしたが、全国から 622 名の皆様に御参集いただきまして、盛会のうちに終えることができたことを喜ばしく思います。

今回の大会テーマは、沖縄開催にちなんで「大学から広げる健康づくりの輪 ゆいま～る」といたしました。「ゆいま～る」とは沖縄の言葉です。「ゆい」には「結」という字を当てることができ、「協働」を意味します。「ま～る」とは「回る」を意味します。「ゆいま～る」は、かつては沖縄の伝統的な慣習（畑仕事を共同で順繰りに行うこと）を表す言葉でしたが、現在では沖縄県民の助け合いの相互扶助精神を象徴するワードとして好んで用いられています。

「癒しの島」と称される沖縄県ですが、「アメリカ世（ゆ）」と呼ばれるアメリカ統治時代と「ヤマト世」と呼ばれる日本復帰後における生活習慣の大きな変化は、かつて長寿と言われた沖縄県民の健康に深刻な影を落としています。

翻って、大学の保健管理業務は学長の責任の下、医師、看護師、保健師、カウンセラー、ソーシャルワーカーなどの専門職と事務職員が連携・協働して行われます。そして、大学の主役である学生と学生を支える教職員を対象としますので、地域保健活動の性格を有する業務だといえます。その経験は、地域社会の公衆衛生に関する有意な知見・知恵に満ちていると期待されます。このような保健管理業務の「協働」と地域への「広がり」をこれからの大学保健管理研究の一つの展開と考え、本テーマを設定しました。

さて、今回のプログラムに目を転じてみますと、恒例ということで担当いたしました特別講演 1 では「島嶼からみる健康・医療」と題して特に沖縄県の状況を中心にお話をいたしました。本学医学部長の石田肇教授による「形態とゲノムから探る琉球列島のヒト」、本学医学部附属病院長の藤田次郎教授による「南の島、沖縄県における感染症から琉球人のルーツを探る」という 2 つの教育講演は、沖縄県を起点としながら、アジア～世界へと空間的な広がり、そして太古へと時間的な広がり、視点を向ける内

容であったと思います。

本学農学部の辻和希教授による教育講演「昆虫社会における共同と裏切りのせめぎ合い」は、アリの世界での出来事について社会的免疫という現象としながらも、私たちの体の中で起こっている更にミクロな世界と通底しているような興味深い講演でした。1日目の午後に行われた一般研究発表で、実に163題の発表が行われたことは、会員の皆さんの職務にかける情熱と探求心の表れとして感銘を受けました。夕刻の懇親会に先立ち、恒例となった優秀演題の表彰式が行われ、南は鹿児島大学から北は北海道大学まで10題の発表にめでたく賞が贈られました。

2日目の幕開けは、津田塾大学学芸部の三砂ちづる教授による「あらためて、『生まれる場』と『死ぬ場』から考える」と題した特別講演でした。かつては家庭・家族で行われていた出産と看取りが、病院という場と専門家のサポートに置き換わったことの私たちへの大きな影響を改めて考える機会となりました。

そして、「健康長寿を目指した取り組み：大学と地域の役割」と題したシンポジウム1では、弘前大学の中路重之教授、慶應義塾大学の広瀬寛准教授、佐久総合病院の西澤延宏副統括院長、本学保健管理センターの崎間敦准教授が登壇し、まさに大学と地域のコラボ（協働）の展開と更なる可能性について議論していただきました。

シンポジウム2「学生の多様性と支援の広がり」では、九州大学の梶谷康介准教授、立命館大学の鈴木華子准教授、東京大学の高野明准教授、名古屋大学の船津静代准教授により、それぞれの大学における特徴的な取組について紹介がなされました。「多様性」という言葉は最近人口に膾炙されていますが、沖縄料理にある「ちゃんぷるー」という言葉は沖縄文化が有する多様性を象徴する慣用語として転用されています。

あらためて振り返ってみると、今回の全国大学保健管理研究集会は、ミクロからマクロな視点の広がり、過去から未来への展望、そして多様性と縦横に話題が展開した2日間ではなかったかと思います。最後になりましたが、御多忙を押して御登壇いただいた講師の先生方、委員・幹事として本会を支えてくださいました九州地区大学の保健管理施設の先生方、そして全国各地から参加くださいました関係者の皆様に深くお礼を申し上げ、報告書刊行の挨拶とさせていただきます。

第55回全国大学保健管理研究集会 運営委員会委員長
琉球大学学長 大城 肇